

ソースファイルの検証

リスト

```
list <linenum>
```

linenum の行を中心に数行のソースコードを表示します。

```
list <function>
```

関数の開始点を中心にコードを表示します。

```
list [+|-|.]
```

+または引数なしの場合、最後に出力された行の続きを表示する。-では最後に出力された行の前を、.では選択中のフレーム内の実行ポイント周辺を表示する。

```
set listsize <count>|'unlimited'
```

list で出力される行数を設定します。

```
list <locspec>
```

locspec で指定した箇所を中心にソースコードを表示します。

```
list [<first>], [<last>]
```

first から last までのソースコードを表示します。いずれかを省略すると最初からまたは最後までとなります。

位置指定

GDB コマンドでプログラムのコードの場所を指定できます。ここでは指定の方法について説明します。

linespec

linespec はファイル名や関数名などソース場所のパラメータをコロンで区切ったリストです。

```
[filename:]linenum
```

ファイル名と行番号を指定します。filename に相対ファイル名を指定すると、同じ末尾成分を持つファイルがマッチします。ファイル名を指定しない場合、現在のファイルが指定されます。

```
-offset
```

```
+offset
```

現在の行からの相対位置で指定します。

```
[filename:]function[:label]
```

ファイル名、関数名、ラベルを指定します。filename 内にある関数 function の label がある行が指定されます。label を指定しない場合、関数本体の開始行が指定されます。C 言語では中括弧ははじめのある行が指定されます。

```
label
```

ラベルのみを指定します。この場合、現在のスタックフレームに対応する関数内の label の位置を指定します。

明示的位置

オプションと値を使って指定する方法です。

```
-source <filename>
```

ファイル名を指定します。-line または -function を併用する必要があります。

```
-function <function>
```

関数を指定します。

```
-qualified
```

-function で指定された関数名を完全修飾名として解釈します。

-label

ラベルを指定します。

-line <number>

行数を指定します。絶対値(符号なし)と相対値(符号あり)が指定できます。

アドレス位置

コードアドレスを指定する方法です。

expression

現在の作業言語で有効な式が受け付けられます。

['filename']funcaddr

関数のアドレスです。C 言語では単に関数名です。ファイル名を指定することもできます。

編集

ソースファイルの行を編集できます。

edit <locspec>

locspec で指定した行を指定したプログラムで編集できます。

エディタを変更する

環境変数 EDITOR にエディタを指定すると edit で開かれるエディタを指定できます。

検索

正規表現でファイルを検索できます。

forward-search <regexp>

search <regexp>

fo <regexp>

最後にリストされた行の次の行から前向きに検索できます。見つかった行はリストされます。

reverse-search <regexp>

rev <regexp>

逆順に検索します。

ソースパス

directory [<dirname>...]

dir [<dirname>...]

ソースパスに dirname を追加します。引数なしで実行するとソースパスをリセットできます。

set directories <path-list>

ソースパスを path-list に設定します。\$cdir:\$cwd がない場合は追加されます。

set substitute-path <from> <to>

ソースパスの from を to に置換し、最後に追加します。

unset substitute-path [path]

パスが指定されている場合、そのパスを書き換えるルールを現在の置換ルールのリストから検索し、見つかった場合は削除します。パスを指定しない場合、すべて削除されます。

機械語

info line [<locspec>]

指定した(指定しない場合は現在の)行のコンパイル済みコードの開始アドレスと終了アドレスを表示します。info line のあともう一度同コマンドを実行すると次のソース行の情報が表示される。

```
disassemble ['/m|/s|/r|/b']
```

メモリの範囲をマシンコードとしてダンプします。/m, /s はソースとマシン命令を、/r, /b は生の命令を表示します。/m は非推奨です。

```
set disassembler-options <option1>[,<option2>...]
```

ターゲット固有の情報を逆アセンブラに渡す設定です。

ソース読み込み無効化

```
set source open ['on|off']
```

GDB がソースコードへアクセスできるかどうかの設定です。デフォルトでは on です。